

# 土着語の政治

Politics in the Vernacular

W. キムリッカ 著

岡崎晴輝・施光恒・竹島博之 監訳

A5 判上製 548 頁 本体 5,460 円(税込)

ISBN978-4-588-60328-0 C3331



## 序章

## 第 I 部 マイノリティの権利に関する論争の展開

- 第 1 章 マイノリティの権利をめぐる新たな論争
- 第 2 章 リベラルな文化主義
- 第 3 章 マイノリティの権利のリベラリズム理論は必要か

## 第 II 部 民族文化的正義

- 第 4 章 人権と民族文化的正義
- 第 5 章 マイノリティ・ナショナリズムと複数ネイション連邦制
- 第 6 章 先住民の権利を理論化する
- 第 7 章 先住民の権利と環境的正義
- 第 8 章 移民多文化主義の理論と実践
- 第 9 章 人種間関係の岐路

## 第 III 部 ナショナリズムに関する誤解

- 第 10 章 啓蒙的コスモポリタニズムからリベラル・ナショナリズムへ
- 第 11 章 コスモポリタニズム、国民国家、マイノリティ・ナショナリズム
- 第 12 章 ナショナリズムに関する誤解
- 第 13 章 リベラル・ナショナリズムのパラドックス
- 第 14 章 国際舞台におけるアメリカ多文化主義
- 第 15 章 マイノリティ・ナショナリズムと移民の統合

## 第 IV 部 複数エスニック国家における民主的シティズンシップ

- 第 16 章 シティズンシップ教育
- 第 17 章 グローバル化時代のシティズンシップ
- 第 18 章 リベラルな平等主義と公民的共和主義

もくじ

国家によるネイション形成にはマイノリティの同化、強制、排除、周縁化がつきものである。その際マイノリティの権利をいかに擁護し、それをリベラリズム理論の枠内に位置づけるのか。キムリッカは、個人の自律的選択の基盤としてネイションの言語や文化が重要であると考え、「土着語の政治」を擁護する。独自の教育や言語政策を行う権利から、より広範な自治権、場合によっては既存の国家から分離独立する権利までも認められるべきだと主張するのである。

W. キムリッカ  
(Will Kymlicka)

カナダ・クイーンズ大学卒業後、オックスフォード大学で哲学の博士号取得、プリンストン大学・トロント大学を経て、現在、クイーンズ大学哲学部教授。リベラリズムの立場から、多文化社会におけるマイノリティの権利などの問題を理論化している。既訳書に『多文化時代の市民権』、『新版 現代政治理論』がある。

切り取って最寄りの書店にお渡しください

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-3-24 京ニビル 法政大学出版局 TEL 03-5214-5540/FAX 03-5214-5542

注 土着語の政治 (サピエンティア 28)

書店名・番線

ISBN978-4-588-60328-0 C3331 定価 5460 円(本体 5200 円+税)

文

書 お名前 :

TEL :

ご住所 :